

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	個別サポート教室こころん		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 4日		2025年 2月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	放デイ20 児童発達支援2	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2024年 12月 28日		2024年 12月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 12日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別で子どもたちへの支援に取り組んでいることから、子どもの居場所として機能し、子どもたち(ご家庭)の満足度は、現状高く水準していること。	毎回の支援のあと時間が許す限りご家庭との連携をとることによって、子どもの日々の成長に寄り添い支援に生かすことができている。	ご家庭と事業所で日々連携をとるように継続していくが、都合により連携を毎度とることができていないご家庭との連携を密になるように展開していく。
2	ICTを利用した支援については、ご家庭に積極的に取り入れてもらえることができてきていること。	発達検査に沿ったアプリの利用やゲーム性をもったビジョントレーニングを活用する。	時代によって、子どもたちが取り組みやすいものは変化していくので、子どもたちが楽しく取り組めるよう配慮していく。
3	資格試験などを取得し、社会に出るための準備を応援していること。	情報処理検定の認定会場であるため、慣れた場所での試験や日々の練習に寄り添うことができている。	現状は、文書作成などの資格を応援することに徹しているが、子どもの成長によって表計算なども対応し、子どもの活躍の幅を広げてあげることができるよう展開していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	作業療法士・言語聴覚士が不在であること。	作業療法などは他の医療機関からのアドバイスを参考に支援している。	事業所として、金銭面での雇用の課題をもつので、今すぐに改善できるものではないが考えていく。
2	事業所としての取り組みの周知徹底。	アンケートにより、災害時の対策に取り組んでいるにもかかわらず周知できていないことを学んだ。	SNSやポスター掲示によって周知徹底を試みることにする。
3	地域との交流。	現状、個別で支援しているため地域との交流は需要がなさそうであったので取り組もうとできていなかった。	地域との交流で需要があり、安全面に考慮できるものを試行していく。